

日本鉄鋼協会記事

編集委員会

第5回編集運営委員会 開催日：11月13日。出席者：加藤委員長，ほか14名。

1. 各分科会からの報告：和文会誌分科会からは「鉄と鋼」寄稿規定一部改訂，講演大会分科会からは第102回大会についての報告がなされた。

2. 依論文賞選考方法については従来通りとし，選考委員会追加メンバーは1月の委員会で推薦，依頼することとなった。

第8回和文会誌分科会 開催日：11月13日。出席者：加藤主査，ほか25名。

1. 29件の論文審査報告がなされ，掲載決定21件，照会后掲載可1件，その他7件であった。

2. 「鉄と鋼」第68年第3号(3月号)に論文11件，技術報告2件，展望1件，解説3件掲載決定した。

第8回欧文会誌分科会 開催日：11月20日。出席者：中村主査，ほか13名。

1. 17件の論文につき審査報告がなされ，掲載可4件，照会后掲載可7件，修正依頼4件，一旦返却2件であった。

2. 「鉄と鋼」以外の国内雑誌より，3件の研究論文と1件のReportを勧誘することとなった。また，第102回講演大会より，118件の講演を研究論文として勧誘することとなった。

共同研究会

製鋼部会

第80回部会 開催日：10月22～23日。出席者：山本部会長，ほか135名 開催地：鋼管・京浜
今部会は記念部会として，下記の特別行事を行った。

1. 特別講演(発表順)

(1) 「製鋼技術に関する最近の進歩と今後の展望」

製鋼部会長 山本全作氏

(2) 「製鋼技術と理論体系のかかわり」 鋼管 顧問

松下幸雄氏

(3) 「京浜製鉄所における製鋼技術の現状と将来」

鋼管・京浜 製鋼部長 楯 昌久氏

2. 来賓挨拶 日本鉄鋼協会会長 武田喜三氏

3. 研究発表(重点テーマ) 発表件数6件「製鋼炉における新しい吹錬技術について」

鋼板部会

第52回厚板分科会 開催日：11月12～13日。出席者：佐々木部会長，平井主査，ほか121名 開催地：鋼管・福山

1. 工場操業状況

2. スタッフテーマ「省エネルギーについて」

3. 作業長テーマ「加熱炉の省エネルギー」

条鋼部会

第34回大形分科会 開催日：11月5～6日。出席者：

日向主査，ほか83名 開催地：住金・小倉
議題

1. 工場操業状況

2. 研究テーマ「圧延ラインの自動化と計測機器の利用状況」

3. 自由テーマ 4. 工場見学

5. 特別講演「大形々鋼圧延用ロールについて」

6. その他

第51回中小形分科会 開催日：11月10～11日。出席者：三宮主査，ほか116名 開催地：大同・知多
議事内容

1. テーマ研究の発表，討議

Aグループ「設備保全」，Bグループ「歩留り現状分析および向上対策」について報告があり，討論を行った。

2. 自由テーマの発表

3. 特別講演「自動車用鋼材の動向について」のタイトルで，トヨタ自動車(株)，品質保証部 松島康男課長に講演していただいた。

4. 工場見学

第52回線材分科会 開催日：10月22～23日。出席者：西崎主査，ほか71名 開催地：吾孀製鋼・仙台
議題

1 操業状況調査表の報告

2 研究テーマ「表面疵の管理方法」の審議

3 自由研究テーマの発表 4 工場見学

(次回開催地：住金・小倉)

調査部会

第5回部会 開催日：9月26日。出席者：林部会長，ほか14名 開催地：経団連会館
議題

1. 「外国鉄鋼業の技術力の現状分析」

2. 「鉄鋼業の技術進歩の可能性」

特定基礎研究会

原料炭の基礎物性部会

第8回部会 開催日：10月9日。出席者：木村部会長，ほか23名 開催地：経団連会館
議題

1. 「コークスの反応性に関する基礎的研究」

2. 「コークスの破壊機構に関する研究」

3. 「コークスの破碎に関する研究」

4. 「石炭乾留反応の基礎研究」

5. 「石炭の熱物性値の測定」

6. 「Balmer, Coalcliff, 開瀾, Mulga 炭のコークス化性の違いの原因」

7. 「水素移動から見た石炭，ピッチのキャラクタリゼーション」

標準化委員会

整合性調査特別委員会

第2回鋼管調査分科会 開催日：9月30日。出席者：

丸岡主査，ほか8名

1. JIS G 3441 の検討
2. JIS G 3445 の検討
3. JIS G 3446 の検討
4. JIS G 3466 の検討
5. JIS G 3442 の検討

第3回鋼質試験調査分科会 開催日：10月27日。出席者：石川主査，ほか13名

1. JIS G 0553 (マクロ組織) の C, B 表について
2. JIS G 0559 (炎焼入れ，高周波焼入れ) の B 表について
3. A 表について
4. JIS G 0553 (マクロ組織) の改正原案
5. JIS G 0558 (脱炭層深さ) の改正原案について

第2回条鋼調査分科会 開催日：10月2日。出席者：

梅原主査，ほか12名

1. JIS G 4202 (アルミニウムクロムモリブデン鋼材) の追加
2. C 表の検討
 - (1) JIS E 1101
 - (2) JIS E 1102
 - (3) JIS G 3123
 - (4) JIS G 3507
 - (5) JIS G 3539

第3回条鋼調査分科会 開催日：10月22日。出席者：梅原主査，ほか12名

1. 普通レール
2. レール用継目板
3. みがき棒鋼
4. 冷間圧造用炭素鋼線材
5. 冷間圧造用炭素鋼線
6. アルミニウムクロムモリブデン鋼

第3回機械試験調査分科会 開催日：10月27日。出席者：塙主査，ほか10名

1. 各対比表の内容説明
2. クリープ試験について
3. 疲れ試験について
4. C 表作成の注意点について

第3回機械試験調査分科会 開催日：11月13日。出席者：塙主査，ほか8名

1. B 表の検討
 - (1) 引張試験片，(2) 引張試験方法，(3) 衝撃試験片，(4) 衝撃試験方法，(5) 曲げ試験片，(6) 曲げ試験方法，(7) HB 試験方法，(8) HV 試験方法，(9) 微小 HV 試験方法，(10) HR 試験方法，(11) エリクセン試験方法，(12) 引張クリープ試験方法，(13) 引張クリープ破断試験方法，(14) 疲れ試験方法通則，(15) 回転曲げ疲れ試験方法

2. 今後の進め方

.....
 アーク溶接鋼管の超音波探傷検査 JIS 原案作成分科会

第1回分科会 開催日：10月20日。出席者：木村主査，ほか18名

1. 資料説明
2. 質疑応答
 - (1) ISO との整合性

- (2) 「内外面自動アーク溶接法」
 - (3) 手動探傷まで規定する理由
 - (4) 自動探傷器「3年以内に1回検定」の根拠
 - (5) 自動探傷器の条件として「AGG 機能をもっていること」を追加すべきである。
 - (6) 「再検査法」の中に放射線透過試験まで入れるのはどうか。
3. 意見・提案について
-

普通鋼分科会

第73回分科会 開催日：11月11日。出席者：小倉主査，ほか12名

1. SPV 改正案
 - (1) 板厚拡大，(2) 熱処理，(3) 化学成分，(4) 機械的性質
2. 80 キロハイテン
3. SLA
4. 新制御圧延法の定義
5. 薄鋼板の見直し
 - (1) G 3302，(2) G 3141，(3) 試験ロットの拡大
 - (4) 自動車用ハイテンの JIS 化

高温強度研究委員会

切欠き効果試験分科会

第2回分科会 開催日：11月19日。出席者：大南主査，ほか25名

当分科会の研究計画書(案)を実施するためアンケートにより作業小委員会への参加を求め，この第1回会合が10月23日に持たれたが，本日の分科会では，この研究計画書(案)の審議と第1回作業小委員会報告が行われた。

ついで，次のように講演が行われた。

1. SUS 304 ステンレス鋼の高温低サイクル疲労強度に及ぼす切り欠き効果に関する研究 三菱重工技術本部高砂研究所 佐近淑郎氏
 2. 高温クリープ域における低サイクル疲労の切り欠き効果に関する一考察 立命館大学理工学部機械工学科 坂根政男氏
-

クリープ強度外挿法分科会

第6回分科会 開催日：10月16日。出席者：藤田主査，ほか15名

- 議題
1. 担当文献の要約発表について
担当の神戸製鋼の委員から紹介が行われた。
 2. 海外出張報告(シンポジウム)について
藤田主査より，Czechoslovakia において開催された“6th International Symposium Creep-Resistant Steels”に出席し，更に主としてフェライト系耐熱鋼の適用性を中心に，英，仏，西独，スイス，チェコの研究機関の訪問，討議，見学を行った(期間，昭和56年9月5日～20日)ことが報告された。
 3. クリープ破断形度外挿データ整理結果について
門馬幹事がまとめられた共同研究のデータの整理結果が報告された。
 4. クリープ破断データ外挿結果について担当の川崎

製鉄が行った長時間クリーブ破断推定手法の検討結果が報告された。

鉄鋼標準試料委員会

第4回常任委員会 開催日：10月23日。出席者：川村委員長，ほか13名

議題

1. 標準値の決定（強靱鋼，高速度鋼，硫黄分析専用鋼，酸化鉄，焼結鉄，マンガニ鉄，鋳物用鉄）
2. ほたる石の鉄物組成について
3. 日本鉄鋼標準試料講習会
4. アンケート解析中間報告
5. その他

鋼鉄基礎共同研究会

融体精錬反応部会

第6回部会 開催日：10月19日。出席者：森部会長

ほか25名

1. 研究発表
 - (1) 脱リン反応時における溶鉄，スラグおよびスラグ-メタル界面の酸素
 - (2) Na_2CO_3 による溶鉄の精錬について（第2報）
 - (3) ソーダ炭系およびライム系フラックスによる溶鉄予備処理
 - (4) 石灰系溶鉄予備処理スラグの CaF_2 の効果について
 - (5) 転炉スラグの溶融還元におけるPの挙動
 - (6) 気泡分散モデルによる流体の流れおよび気-液間物質移動の解析
 - (7) 溶融金属中への不活性ガス吹き込みによる浴内循環流動と均一混合時間
2. 協議 次回部会 昭和57年1月25日（月）

会誌「鉄と鋼」UDC 標数記載打ち切りのお知らせ

会誌「鉄と鋼」では昭和47年1月号（第58年第1号）から国際十進分類によるUDC標数を論文，技術報告，技術資料，解説類，講演大会講演概要集に記載し，会員ならびに関係読者の文献検索の便に供してきましたが，昭和56年12月号（第67年第16号）を最後にその記載を打ち切ることになりました。

最近までの文献検索は，カードシステムが中心で文献検索に有効な分類体系であるUDC分類法を，イギリス，フランス，ドイツ，ソ連など主要国の情報処理機関が採用し，国際協力による情報管理が推進されていました。

しかしながら近年情報管理にもコンピュータの導入が進み，オンラインにより端末機からの文献検索が可能となりました。コンピュータによる文献管理はキーワードが中心となりUDC分類体系はほとんど使用されなくなりました。従つてこれまでにUDCに基づいた英国The Metals SocietyのABTICS (Abstracts and Book Title Index Cards Services) カードもすでに業務を停止して，米国American Society for Metalsと共同で，新たに金属工学文献のデータベースMETADEXの作成へと方向転換をしています。

本会鉄鋼技術情報センター（JISTIC）では情報管理システムの変革に対処し日本科学技術情報センター（JICST）と密接な連絡のもとコンピュータによる情報処理を進めてまいりました。

会員ならびに関係読者にはJISTICに設置の端末機からご要望に基づいた情報を迅速に提供できる体制を整えておりますのでご利用方ご案内申し上げますとともに，国際的な情報管理体制の趨勢に鑑みて，UDCの記載打ち切りいたしました事情をご賢察いただきご了承さるようお願い申し上げます。